



# Chigasaki mates

2007. 10. 1

茅ヶ崎方式英語会 協力校通信 第40号

有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I  
Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakieigo.com/> e-mail: [info@chigasakieigo.com](mailto:info@chigasakieigo.com)

はじめに

記録的な猛暑もやっと終り(？)、秋色ふかみゆくこのごろ、みなさまお元気で過ごしてでしょうか。今回は、協力校を始めて10年以上のベテラン校3校から原稿を頂き、また浜松校のアイランド旅行の紀行文をお寄せいただきました。

## ♫ トニー・ブレアと二千の語り部達

大阪難波校 代表 笹山陽久

1997年5月から始めた「茅ヶ崎方式」の授業もお蔭様で丸10年を無事終了、今現在11年目に突入しております。

船出は迷走、難破、沈没寸前の泥舟にたった7人の乗客を乗せ、おまけに「操舵夫」は酩酊気味のお粗末、暗澹たるものでした。が、月日は幾星霜、アッ！と言う間に流れ、今では優秀なる航海士に操縦を任された「豪華」とは言わないまでもそれなりの3代目客船「ナンバ号」に、約300名の乗客を運ぶ航海へと格上げとなりました。5年以上乗船の常連組も3割を超え、さながら一蓮托生の英語版「ノアの方舟」の様相を呈しています。

嗚呼、思えば遠くに来たもんだッ！

その間授業で使われたリスニングのニュースは多岐に亘り、数えてみれば第33期 UNIT-1に始まり第52期 UNIT-16でピッタリ2,000本！事の軽重に拘わらず、その1本1本が紛うことなく同時代の雄弁な語り部である。特にこの10年を最も象徴した人物を挙げるなら英国首相のトニー・ブレア氏ではないかと思えます。97年5月の首相就任から今年6月の辞任までに「茅ヶ崎」の授業にも彼並びに彼の国絡みのニュースが随分と取り上げられました。列举すれば切りがないのですが、香港の中国への返還や陰謀説が公然と囁かれる「ダイアナ妃」の事故死、ロンドンの同時多発テロ、3度目のオリンピック開催決定等々。勿論他にも数多の国内外の出来事が「教材化」され、学習者の英語力向上は言うに及ばず「世界の今」を知る格好の素材として消化、吸収されてきました。

例えば、恰もイチローが毎年当然のように200本以上のヒットを量産しているように、今年も「難波校」は各ライター諸氏の投ずる200本の直球、変化球、荒れ球、時として魔球を「教室」というフィールドで如何に的確に打ち返すか腐心しています。

「難波校」の「ヒット」はどこまで続くのか？願わくは、4,000本は無理にしろ、少なくとも3,000本までは石に齧りついてでも辿り着きたいものです。この先、一体どんな「剛速球」が待ち受けているのか予想すら出来ません。鬼が出るか蛇が出るかの怖いもの見たさのお愉しみです。刻一刻と変化する森羅万象を様々な制約の中で教材化されるライター諸氏のご苦勞は想像に難くありません。心よりお礼申し上げます。

## ♪ 茅ヶ崎方式我孫子北校 12年目を迎えて

我孫子北校 代表 橋詰美恵子

ある秋の日、松戸駅に隣接する小さな本屋で私の英語人生を変える一冊の小さな薄い本をふと目にしたのが始まりでした。表紙の人物の写真にひかれ、その地味なB5サイズの本を手に取り数ページに目を通した瞬間、魅せられてしまったのです。うんざりするほどびっしり字の詰まったページ、内容はそれまで最も苦手としていた分野であふれていました。でも、でも、これこそずっと欲しかったものでした。

その名はバイマンスリー。しばらく学習していくうちに、それまで避けていた政治・経済用語もあまり抵抗なく頭に入り、「英語を聴く耳」が出来、内容が頭の中に留まってくれるようになり始めたのです。そして英字新聞の政治欄を面白いと感じ始めたのです。この喜びをほかの英語学習者にも是非味わって欲しいと思ったのが我孫子北校の始まりでした。

今、私はクラス見学に来られた人に「10回頑張ってください。3ヶ月後にはずっと楽に聴き取れるようになりますよ。」と言います。昨年秋に入会されたAさんから最近次のように打ち明けられました。「実を言うと、なかなかリスニングが上達しなくて今年の始め頃クラスを辞めようと思ったのですよ。でも丁度そんな時、最近よく聞き取れるようになりましたねと褒めてもらって、もう少し続けてみようと思直しました。褒めるというのは大事なことです」と。確かにそういうことがありました。でも決してお世辞で褒めたものではありません。本当にその頃Aさんのリスニング力は急速に伸びたのです。

我孫子北校は長期の学習者、あるいは一度退会されても再入会される方が多いのですが、長期学習を促す何か茅ヶ崎方式の学習会にはあるのでしょうか。変化する社会に対応する内容、簡潔にまとめられた記事、聴き取れた時に感じる満足感、そして何よりクラスの他のメンバーから受ける刺激! お互いの情報交換も大事な要素です。(専門の立場から追加情報を下さる方、図書館で過去の英字新聞から調べてきて下さる方、インターネットから追加情報を引き出してきて下さる方々など皆さんに協力していただいています。)

先月の参議院選、イラクの悲惨な状況、二日前の千葉県で連続して感じられた地震の揺れ、今朝の那覇空港での事故、などについての確かな表現で話せたらなあと思英語学習者なら思うでしょう。この的確な表現がじわじわと脳に浸み込み、気づかないうちに身につく、それを可能にしてくれるのが茅ヶ崎方式だと信じています。

我孫子北校のモットーは「厳しく、楽しいクラス」です。今年はいわじわ脳に浸み込んだ多くの英語表現を皆さんに **output** して頂く機会をもっと増やして「活気あるクラス」も目指そうと思っています。



## ♫ ローカルにあつて、世界標準をめざす

山口校 代表 波多野義憲

室町時代に大内文化の花開いた西の京である県都・山口市の中心部より少し郊外に位置し、SL が今もすぐ前を走る川のふもとに、HATANO ENGLISH HOUSE を創立して今年の9月1日で22年を迎えます。幼児から小学生を中心に、中学生、高校生までの英語の一貫教育をしています。テストに出ない事には興味がなく勉強しようとしなない高校生に危機感を感じ、10周年を迎えた年に、卒業生の東大生や早稲田の学生を連れて茅ヶ崎方式英語会を訪ねたことを今も覚えています。そしてこの茅ヶ崎方式こそ、10周年の変革の柱になると確信し、選択コースに導入、現在に至っています。C-1とC-2レベルを山口県では他に先駆けて指導を開始し、英検3級をパスした中学生からC-1をスタートし、英検2級もしくは準2級合格者をC-2クラスに進級させてオールイングリッシュで鍛えています。お陰で高校生の中からトフル試験で500点を出す生徒も出てきておりますし、英検準一級合格者も排出してきました。

「ローカルにあつて、世界標準をめざす」をスローガンに海外の大学とも提携し留学も視野に入れた英語指導に専念しています。一方、国内の大学進学者も多く、英語力を突破口に今年も東大、京大に揃って現役合格を果たしてくれました。彼らも熱心な茅ヶ崎時事英語の生徒達で、C-2レベルはほぼ完璧にこなしていました。

さて、幕末の1863年国禁を犯し、横浜より英国を目指した日本人初の英国への留学生である長州藩（現山口県）の若き20代の志士たちを鑑に、英語教育を通じ愛する郷土・山口の若者の人格育成をめざしています。ちなみに昨年この5人の志士達をモデルにした待望の映画が完成し、この9月にはDVDが発売されます。タイトルは「長州 FIVE」、東大の工学部や聾啞学校の礎を作った山尾庸三、日本鉄道の父・井上勝、初代内閣総理大臣・伊藤博文などです。創立以来の建学の精神「English and Manners」を基本に、彼らの大きな志や使命感を肌で感じ、世界に翔たいてもらいたい。その柱となっているのが茅ヶ崎方式です。今後も、さらに力を入れていくつもりです。



### 茅ヶ崎方式英語会からのお知らせ

- ❖ 茅ヶ崎方式の完結編である対話教本 **Book 5** が、2008年1月、(有)茅ヶ崎出版より出版の予定です。Class 4の基本教本として明年4月から使用する予定です。
- ❖ 茅ヶ崎方式創設25周年と Book 5 出版記念パーティが2008年1月12日神奈川県藤沢市にて開催される予定です。創立者であり Book 5 著者である松山薫氏の記念講演も行われます。詳細が決まり次第、お知らせ致します。
- ❖ 第5回 TOEIC IP テストの実施期間は11/17～11/30です。ふるってご参加ください。
- ❖ 協力校会員限定で教本音声教材をMP3ファイルにしたCDを当社より発売の予定です。i-Podなどのオーディオデジタル機器にコピーしてユビキタスな学習にご利用いただけます。詳細は、パンフレットでご覧下さい。

「妖精フェアリーの国アイランドを訪れてみたい」という私の一途な願いに会員を巻き込むのは、案外、容易かった…理由はいくらでも後付けできるからです。例えば、①普段鍛えたリスニング力を試してみましよう。②長年に渡る英国の支配の下で彼らを支えたアイリッシュスピリットを感じましよう。③ノーベル文学賞作家を輩出したバックグラウンドにあるケルトの民話を学習ましよう。④ケネディのルーツはアイランドよ。⑤パブでギネスビールを飲もう！ etc. etc. という訳で時間とお金をやりくりして有志者でアイランドに行行って来ました。楽しかった思い出は、浜松校の語部、大石世志子さんにおまかせすることにします。

P.S. アイランドとは関係ありませんが…国連英検特 A 級に合格できました。国連英検協会の合格者紹介サイトに私のコメントが載っていますので、ひやかしに見て下さい。

## アイランドへの旅

浜松校 C2 会員 大石世志子

「修学旅行に行きませんか。」先生からお話があったのは去年のこと。行き先はアイランド。日本からのツアーがほとんど無く、行ったことのある学習者もいなかった。決定。それから 1 年かけて、事前学習が始まった。ガイドブックにある主な項目を全員で手分けして調べ、手作りの英文冊子を作った。アイランド関連の映画を見、司馬遼太郎の「愛蘭土紀行」を読んだ。文学や歴史に関する学習会を開き、独立に至るまでの歴史や、ノーベル文学賞受賞の作家たちのことを学んだ。

こうして、7 月 31 日、旅に参加しない仲間からの「気をつけて、良い旅を」の寄せ書きをお守りに、大人 9 名、子供 2 名の旅が始まった。(直前に 2 名不参加になったのは本当に残念)

現地の気温は 16℃～20℃。涼しいというより肌寒い。1 年に 200 日は雨が降るといふ。晴れていても雨が降る。日照雨そぼえ。しかし観光には支障のない程度。聞けば私達の到着前 50 日間ずっと雨だったとか。お守りの威力だろうか。私達はツイている。アイランド、人々は長い間岩盤の国土の上に海藻を敷き、わずかな土を作ってきたといふ。なだらかに続く丘陵は緑の牧草に蔽われ、羊や牛が悠々と草を食む。ディンクル半島からの眺め、映画「ライアの娘」の舞台となったモハーの断崖、インチ海岸、次々と広がる絶景は筆舌に尽し難い。ケルトの文化や音楽、日本でも馴染みのアイランド民謡。遠い異国でありながら、懐かしささえ感じられる。

食事は海の幸がおいしい。連日ギネスビールを飲み、パブによって少しずつ味わいの違うアイリッシュコーヒーを存分に楽しみ、帰国の時には皆すっかり評論家と化した。

旅の足は貸切りバス。移動中の車内は話が弾み常に爆笑状態。日頃は、違うレベル、違うクラスでゆっくり話すこともないのだが、そこは教室で同じ苦勞をしている仲間。「同じ釜の飯を食う」ことになれば打ち解けるのに時間はいらぬ。旅の楽しみは倍増した。

この旅を通じ、またも痛感したのは聞くことの大切さ。アイリッシュなまりの英語を生活雑音の中で聞きとるのは至難の技。それを聞き分ける C3 の実力を目の当たりにし、もっと頑張ろうと思いを新たにした。私にとっては、大きな宿題を抱え込んだ旅でもあった。

あとがき：教室の仲間とアイランドへの旅。素敵ですね！ 1 年かけての事前学習。私も見習わなければ！  
皆様からのお便りをお待ちしています。